

栗林遺跡確認緊急調査報告書

1980年3月

長野県中野市教育委員会

序　言

昭和35年2月県史跡に指定された栗林遺跡は中野市栗林の部落の中心からその東北方にかけて東西約360m、南北およそ85mにわたる長方形をなす部分でおよそ31,000m²（9400坪）の地籍であり、現在同地籍はリンゴ・桃を中心とする果樹農業地帯になっておりますが、年間の降雨量が少ないとから、同地域の農家では灌漑施設を要望しておりますところ、農林水産省の補助をうけて県営西部地区畠地帯総合土地改良事業が実施されることになりました。

この事業を実施するためには、遺跡保護のための調査が必要となりますので、中野市教育委員会では緊急確認調査を実施することになりました。

調査顧問を県文化財保護審議委員金井喜久一郎先生に、調査団長を県文化財保護指導委員金井汲次先生にお願いし、調査員に田川幸生・松沢芳宏・檀原長則・金井文司・国学院大学生藤塚郁夫の各氏、調査補助員に地域考古学同好の5氏にお願いしました。また協力団体として栗林区（石川文雄区長はじめ多くの区民諸氏）や中野実業高等学校生徒10名など多数の皆様方の御協力を得て、昭和54年7月25日から8月12日まで発掘調査を実施しました。桃の収穫期で農家にとっては多忙な時期であり、また酷暑の候ではありましたか、顧問・調査団長の先生方の細密な計画や適切な御指導のもとに、調査員や調査補助員の皆様方の献身的な御努力によって、栗林遺跡の範囲・構造・遺物の分布状況などの確認ができました。

この緊急調査に御参加くださった多数の皆様方の御努力に対し深く感謝申しあげるとともに、団長金井汲次先生の御尽力によりこのように立派な報告書ができましたことは誠に有難く、厚く御礼を申しあげます。

昭和55年3月

中野市教育委員会教育長

菅　沼　利　雄

目 次

序 言 中野市教育委員会教育長 幸沼利雄
目 次
図表目次
図版目次

1	はじめに	1
	調査団の構成	1
2	調査の経過	3
	(1)現地調査	4
	(2)調査の整理	4
3	遺跡の立地と環境	5
4	調査地区の配地と調査坑	8
5	土層の堆積状態	10
6	遺構・遺物	12
	(1)遺構	12
	(2)遺物	13
	①A地区出土遺物	13
	②B地区出土遺物	15
	③C地区出土遺物	18
7	周辺調査	25
	(1)白山姫神社古墳(栗林1号墳)	25
	(2)栗林西原窯址群	26
	(3)表面採集資料	28
	(4)井戸址	28
8	結 び	28

図表目次

第1図	栗林遺跡遠景	3
第2図	調査の状況	4
第3図	栗林遺跡周辺図	5
第4図	周辺遺跡分布図	6
第5図	調査坑分布図	9
第6図	A地区第32号調査坑	10
第7図	土層の柱状図	11
第8図	B-23号遺構実測図	20
第9図	A地区調査坑出土遺物実測・拓影図	21
第10図	B地区調査坑出土遺物実測図(1)	22
第11図	B地区調査坑出土遺物実測図(2)	23
第12図	B地区調査坑出土遺物拓影図	24
第13図	C地区調査坑出土遺物実測・拓影図	25
第14図	白山姫神社古墳実測図	26
第15図	周辺調査出土遺物実測図	27
第16図	井戸址実測図	29
第17図	栗林遺跡範囲分布図	29

第1表	確認調査地表	3
第2表	周辺の遺跡分布表	6
第3表	調査坑集計表	8
第4表	遺構一覧表	12
第5表	A地区調査坑出土遺物一覧表	14
第6表	B地区調査坑出土遺物一覧表	15
第7表	C地区調査坑出土遺物一覧表	18

図版目次

〈図版第1〉	栗林遺跡付近（航空写真）	30
〈図版第2〉	遺跡遠景	31
〈図版第3〉	調査坑A-4号	31
〈図版第4〉	調査坑A-29号	32
〈図版第5〉	調査坑A-31号	32
〈図版第6〉	調査坑A-39号	33
〈図版第7〉	調査坑B-23号	33
〈図版第8〉	調査坑B-80号	34
〈図版第9〉	調査坑B-90号	34
〈図版第10〉	調査坑C-1号	35
〈図版第11〉	調査坑C-34号	35
〈図版第12〉	白山姫神社古墳	36
〈図版第13〉	井戸址遺物	36
〈図版第14〉	工作台石、五輪塔	37

1 はじめに

本市西部地区（高丘・長丘丘陵）は、果樹地帯であるが、年間1,000mm程度の雨量で干ばつを受けやすい土性から地域農家は、以前から灌漑施設を要望していた。いよいよ、この要望が実って県営西部地区畠地帶総合土地改良事業として、農林水産省において補助事業として採択される見通しがついたのは、53年9月のことである。

しかし、本市西部地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地が、いたる所にあり、本事業を遂行するには、まず、遺跡を保護することが先決問題となつた。

このため、53年9月に県耕地課から県教委文化課へ保護のための協議がなされ、文化課・北信土地改良事務所・市耕地課・市教委の四者に中野市文化財保護審議会長金井汲次氏をmajieして、工事施行範囲の地図を基にし、現地協議を行つた。この結果、工事設計によって、避けることができる遺跡は、できる限り避けることとし、遺跡内に灌漑施設が必要となる遺跡は、9遺跡にのぼることが明らかとなつた。このうち、重要遺跡である県指定史跡栗林遺跡については、事前に市教委により緊急確認調査を実施し、その結果を待つて改めて保護について検討することとなつた。

このようにして、本調査を実施することとなつたが、調査には、多額の費用が見込まれるため、国ならびに県のご援助を要請したところ、幸い、文化庁・県教委文化課の格別のご配慮により補助事業として認めていただくことができた。また、この調査を成し遂げるには、幾多の困難が伴い、さらに調査時期は、酷暑の最中であったが、ここに当初の目的を達し得たのは、ひとえに調査参加者の協力があったからであり、次に調査に当たつての協力者のご芳名を掲げ感謝の意を表する次第である。

〔調査団の構成〕 (敬称略)

調査責任者	中野市教育委員会教育長	菅沼利雄
顧問	長野県文化財保護審議委員 信濃史科常任編さん委員	金井喜久一郎
参与	栗林区長	石川文雄
〃	栗林副区長	有賀褒之輔
〃	栗林区会計	山口清玄
調査団長	日本考古学協会員 長野県文化財保護指導委員	金井汲次
調査員	日本考古学協会員 平野小学校教諭	田川幸生
〃	日本考古学協会員 飯山北高等学校教諭	高橋桂
〃	日本考古学協会員	松沢芳宏
〃	長野県考古学会員	檀原長則
〃	長野県考古学会員 小布施町公民館主事	金井文司

#	国学院大学学生	藤塚 郁夫
#	明治大学学生	望月 咲
調査補助員	長野県考古学会員	神田 権治
#	長野県文化財保護協会員	小林 軍司
#	"	長針 功
#	高井地方史研究会員	池田 実男
#	"	畔上 克臣

調査協力員

金井 孝光	・	金井 民雄	・	藤沢 隆弘	・	藤沢 昭雄
関 武	・	桑原 政明	・	宮崎 清隆	・	阿部 伸介
仲俣 修	・	高橋 正彦	・	三ツ井 幸広	・	関口 雅樹
山本 桂治	・	宮崎 浩幸	・	芋川 康藏	・	原田 泰
田中 光男	・	高橋 英志	・	入山 和明	・	町田 和江
小林 慶一	・	山口 敏雄	・	松井 正一郎	・	清水 利作
涌田 茂輔	・	神田 林	・	増田 昌	・	松島 広一
町田 武元	・	有賀 隆	・	栗原 みちよ	・	小林 春美
岩月 直樹	・	海谷 雅明	・	小林 美恵子	・	有賀 金治郎
有賀 直義	・	有賀 和江	・	石川 修司	・	清水 修一郎
松島 喜代茂	・	増田 きみ江	・	石川 高義	・	増田 陽子
町田 ふじ	・	石川 はる子	・	浅沼 清美	・	浅沼 政子
永井 清美	・	小林 君江	・	藤沢 恵子	・	竹内 民子
清水 優子	・	石川 典子	・	頼所 幸代	・	篠原 邦子
戸井田 修	・	町田 さつき	・	増田 善行	・	弓田 友孝

調査協力団体 栗林区

事務局 中野市教育委員会事務局社会教育係

(山口耕一)



第1図 栗林遺跡遠景

2 調査の経過

○54年6月22日付で埋蔵文化財発掘届（文化財保護法第98条の2第1項の届）を文化庁長官あて提出した。

第1表 確認調査地表

地字	地番	遺跡の面積	遺跡の種類	現状
大字栗林字北原・松原	字北原 463番地 ほか	約 120,000m ²	弥生時代 集落址	宅地・畠 水田・原野

○54年7月13日付で、調査員等の委嘱及び地元栗林区へ協力の要請をした。

○54年7月19日 栗林区協議会において、協力を得るため、調査説明会を開催した。この説明会で問題点となつた事柄は①スピードスプレイヤーの通路は、試掘しないこと。②消毒用水用ビニールパイプは破損しないこと等であった。これらは、調査の際、避けることで合意を得ることができた。

○54年7月21日 調査の成功を期すため、調査団の結団式及び調査打合せを開催した。県教委文化課指導主事間孝一・白田武正両氏の指導を仰ぎ、金井團長から調査計画等について具体的に説明がなされた。

(1) 現地調査

現地調査は遺跡全域を主な道路や河川で、A・B・Cの3地区に分割し、およそ24m間隔で1m平方の調査坑を設定することとし、調査を開始した。（第5図参照）

- ① 7月25日～7月31日 B地区調査坑の設定・試掘作業、B地区土層・遺構調査、B地区調査坑の写真撮影、検出土器・石器の整理、A地区山城跡の確認調査。
- ② 8月1日～8月4日 A地区調査坑の設定・試掘作業、B・A地区的土層・遺構調査、A地区調査坑の写真撮影、B地区埋め戻し作業、B地区調査坑設定地点の測量。
- ③ 8月5日～8月9日 C地区調査坑の設定・試掘作業、C地区土層・遺構調査、C地区調査坑の写真撮影、A地区埋め戻し作業、A地区調査坑設定地点の測量、検出土器・石器の整理、県教委文化課白田指導主事来訪、指導を受ける。
- ④ 8月10日～8月12日 周辺調査、C地区埋め戻し作業、C地区調査坑設定地点の測量、検出土器・石器の整理、発掘器材の撤収、現地での調査がすべて終了したので、8月12日午後から中間報告会を開催した。金井団長から遺構・遺物を推考しての詳細な報告をいただいた。



第2図 調査の状況

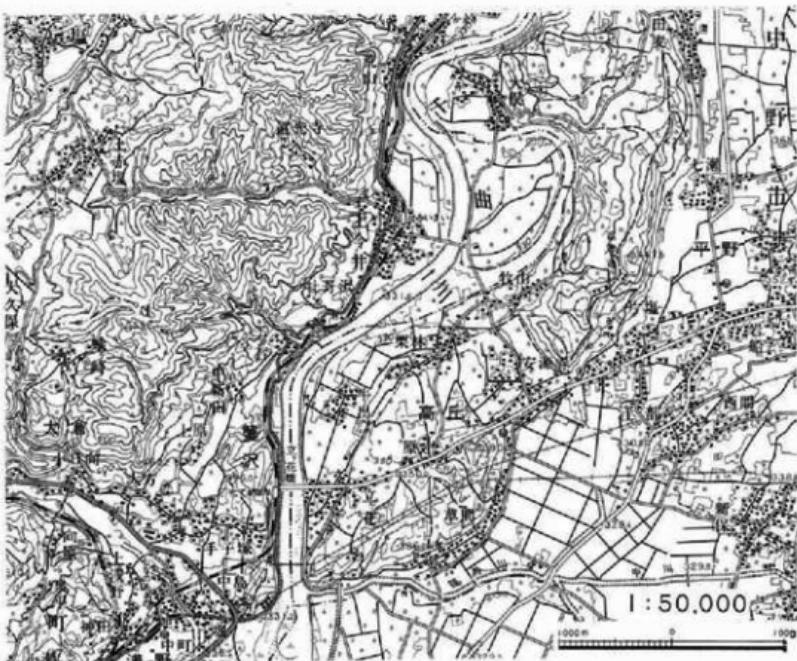
(2) 調査の整理

- ① 8月17日～8月31日 出土遺物の整理を実施。（遺物の時代別分類・注記・拓本の作成、調査カードの整理等）この間8月27日県史刊行会編纂委員樋原健氏の指導を得た。
- ② 11月20日～12月20日 遺物の拓本作成、遺物の分類・実測、遺物実測図墨入れ、土層図の作成 地図墨入れ、遺物写真撮影等を行う。以上が本調査の経過である。 (山口耕一)

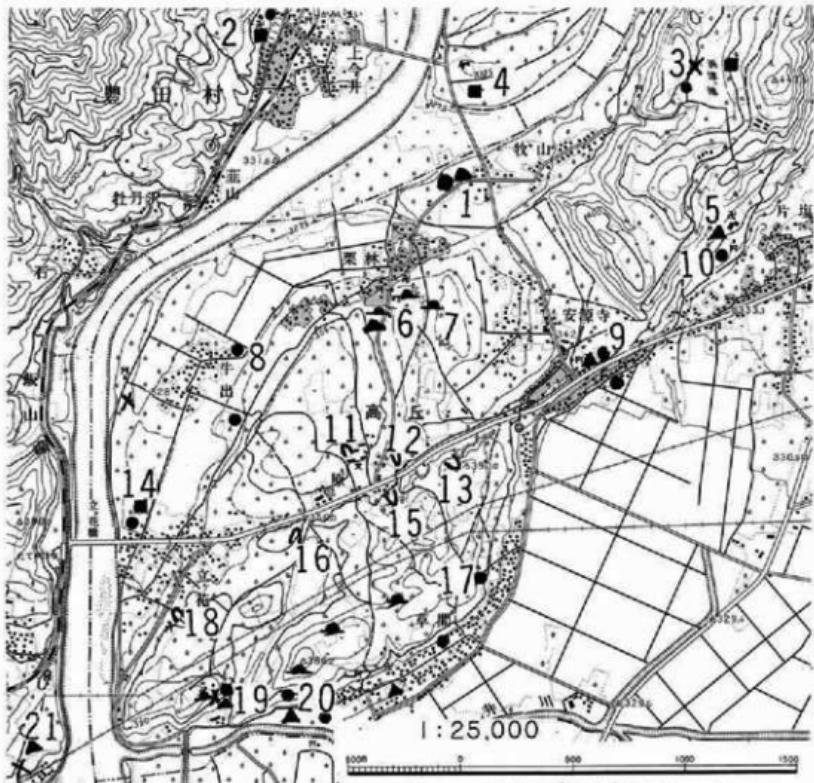
3 遺跡の立地と環境

栗林遺跡は長野県中野市栗林地籍に所在し、遺跡の標高は330mから360m前後である。高丘丘陵北麓の千曲川旧床の河岸段丘上にのぞむ微高地に営まれた弥生中期の集落遺跡であり、年間降雨量1,000mm程度（全国年間平均降雨量1,600mm）という少ない降雨量であっても、稻作には適した地域であったと思われる。すなわち、字北原の北西側は高さ3m内外の崖地で、その下は千曲川の旧河道となっている。また、南側はやや低くなってしまっており（東寄りを字下提、西寄りを字清水尻）かつては湿地帯、あるいは沼沢状の地帯であって、土壤は水はけが良く、水田として利用されたと推測できる。また、字北原は集落立地に適しており、今までの調査においても住居址、土塙墓が検出されており、県史跡指定（昭和35年、面積31,000m²）地域である。

なお、現在栗林地区周辺の最大積雪は50cm、根雪期間は97日（昭和50年調べ）である。



第3図 栗林遺跡周辺地図



第4図 周辺遺跡分布図
 ×旧石器遺跡 ■縄文遺跡 ▲弥生遺跡
 ●土師遺跡 ▲古墳 △窯跡

第2表 周辺の遺跡分布表

遺跡番号	遺跡名	所 在 地	立 地	時 期	遺跡の状況及び出土品
1	栗 林	高丘栗林北原他	平地	弥~平	弥生(中・後) 磨石鋸、大型蛤刃石斧、肩平片刃石斧、石器、石包丁、石槌、管玉、勾玉、小玉、凹石他、土師器
2	上今井 山根	(豊田村上今井)	平 地	縄・弥・古	陶中期切頭型式、勝坂式、加曾利E式、祖之内式、佐野式、土偶(中期)、石鏡、打石斧、磨石斧、石錐、石匙、磨石、石皿、石施、砾石、(玉石?)、石棒 陶栗林式、稻清水式、前野町式、類似蓋、打石鏡、大型蛤刃石斧、肩平片刃石斧、有孔小形石斧、石斧形石製品、玉(有孔)、(凹孔)鉢底(後期)

3	浜津ヶ池	高丘栗林壺池	丘 腹	先・繩・古	ナイフ、彫刻器、搔器石刃、磨石斧、打石斧、石鎧、土師器
4	南 大 原	(豊田村上今井)	平 地	繩・弥・古	輪有尾式円、南大原式円、北白川下層Ⅱ式円、上原式円加曾利E式、石鎧、打石斧、磨石斧、石匙、石匙、四石、石皿、灰状耳飾、鹿、イノシシ、クルミ 栗林式、粗清水式、打石釘、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、細形管玉 中後期系切目、神後葉
5	大 德 寺	平野片塙櫻ノ木	丘 陵	弥・古	弥生(中) 土師器
6	栗林古墳 1 " 2	高丘栗林西原 上原	平 地	弥・古	2基 方墳
7	小丸山 古墳	" "	絆塙	小丘頂	古
8	牛 出	" 牛出東原	丘 陵	繩・弥・古	磨石斧、石槍、石皿、大型蛤刃石斧
9	安 源 寺	" 安源寺宮裏 他	段 丘	先~歷	ナイフ、形効器、石刃、縄文(中・後)打石斧磨石斧、石鎧、石槍、石匙、四石他、 弥生(中・後)磨石斧、打石斧、大型蛤刃石斧、石包丁、扁平片刃石斧、管玉他、鐵鎌・鍔、土師器、須恵器、古鏡
10	片 塙	平野片塙	丘 陵	平	土師器
11	中原窯址	" 中 原	"	平	須恵窯 1基
12	坂下 窯址	高丘草間坂下	"	"	須恵窯 4基
13	茶臼峯 窯址	" " 茶臼峯	"	奈~平	須恵窯 6基
14	立ヶ花	" 立ヶ花西原	段 丘	繩・古	縄文(中)石槍、石鎧、石匙、土師器
15	林畔窯址	" 草間林畔	丘 陵	平	須恵窯
16	池田端 窯址	" " "	"	平	須恵器
17	高屋敷	" " 高屋敷	段 丘	弥~平	弥生(中・後)凹石、土師器
18	立ヶ花 表山窯址	" 立ヶ花表山	丘 陵	平	須恵窯 4基
19	立ヶ花表	" " 表	丘 腹	先・弥・古	ナイフ、彫刻器、スクレーパー、石刃、弥生(中)須恵器、土師器
20	がまん洞	" 草間西道端 他	丘 陵	弥・古	弥生(中)勾玉、土師器
21	中島 峯ノ塙	(豊野町中島)	丘 陵	古	(中)後期一高台付皿、灰釉皿? (中)灰釉皿?

栗林遺跡は、過去において三回の発掘調査が行われ、弥生中期土器は細首壺、広口甕、鉢の類があり、装飾文が施され、朱が塗られている。また台付き甕、瓶、壺のふた、注口土器などもある。土製品には紡錘車の出土も多い。石器は質量ともに豊富であり、太形蛤刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁、石槍などが多數出土している。さらに、碧玉、鐵石英の細形管玉、硬玉製小形勾玉、鐵石英・滑石の丸玉など多くの玉類が採取されている。

中部山岳地帯の弥生中期の標式遺跡として早くから学界に知られている。(岩戸啓一)

4 調査地区の配地と調査坑

調査地域を3区分し、北からA・B・Cとした。A地区は牧山地籍、B地区は県の史跡指定範囲を中心に南側の水田地帯へ張り出した畠地を含め、栗林部落の中心部を占める農家の屋敷地帯とその北側の耕地をC地区とした。

調査坑は各辺が正方位に向く1mの正方形としたが、周囲の状態で、それだけの面積をとれない地点は半分とし、総計242坑を設定、その分布は第3表のごとくである。

第3表 調査坑集計表

地区	A地区	B地区	C地区	合計
調査坑数	62	110	70	242

調査は、県史跡指定地で過去2回にわたって学術的発掘調査が行われ、現況は果樹園地帯で、調査坑を設定する場合見通しのよいB地区から開始した。7月下旬は、果樹栽培農家にとって最後の仕上げ消毒期となつたため次の諸点について考慮をはらわなければならなかつた。

①スピードスプレイヤー車（以下SSと略称する）の通路ははずしたこと。そのためSS組合役員の先導によって調査坑を設定した。

②SS車通行のため頭初は2m×2mの調査坑を予定していたが半分の面積とせざるを得なかつたこと。

③各園地の地下に埋設してある消毒用ビニールパイプの損傷をさけるため調査坑設定の予定地を変更せざるを得なかつたこと。

また、この期間は果樹成熟期にあたり、折からの晴天続きであったため樹根に干害のおそれがあるため、調査坑を堀りあげた後は、素早く調査をすませ埋めもどしをしなければならなかつた。B-23は敷石遺構が検出されたため、この1か所に限つて調査坑を拡張した。

A地区は、往時に故小林覚太郎氏が焼瓦生産のために粘土を採集された約5,100m²と、水田地帯を除外して調査坑を設定した。果樹園の調査坑設定はB地区同様SS組合役員の先導によつた。

C地区は農家の敷地が大半で、屋敷内には各種の建物、築庭、庭等が所在するため、予定した調査坑は半数にとどまつた。農地は昭和5年の開田耕地整理によって地形は変貌し、工事中に出土品をみた地帯である。水田転作によってアスパラガス畑は宿根のため調査面積は半分にした所もある。農作物の種類も複雑に入りこんでいたため見通しが悪く飛び畠が生じたり、欠番（70）も出てしまつた。（金井文司）

5 土層の堆積状態

調査坑は、1m×1mの正方形とし、黄褐色を呈する粘土層の表面が現われるまで堀り下げ、土層堆積状態の観察にはその北壁を利用した。第7図の柱状図は北側からの傾斜を示す。

土層の堆積は、A、B、C、地区とも基本的には、第1層の茶褐色を呈する砂質層、第2層の黒褐色を呈する粘性のある砂質層の2層となる。

壁面をきれいに露呈できた地点では、さらに第1層を、耕作による搅乱層1a層、細礫を点在する1b層、細礫を点在し、締まりあり、粘性もややある1c層、1c層より粘性縮まりある1d層と分けることができた。

第2層も、第1層から黒褐色を呈する層にかけての漸移層である2a層、かなり締まりあり、粘性あり、明るい色調の黒褐色を呈する2b層と分けることができる。

また、柱状図に見えるA-28、34、C-4、32、57の灰褐色の呈する粘土層は、旧水田の床である。調査区域では他に、A-15、18、19、23、26、27、28、C-12、13、14、15、20、23、24、25、26、29、30、31、32、35、36など、まとまった地点で観察できた。

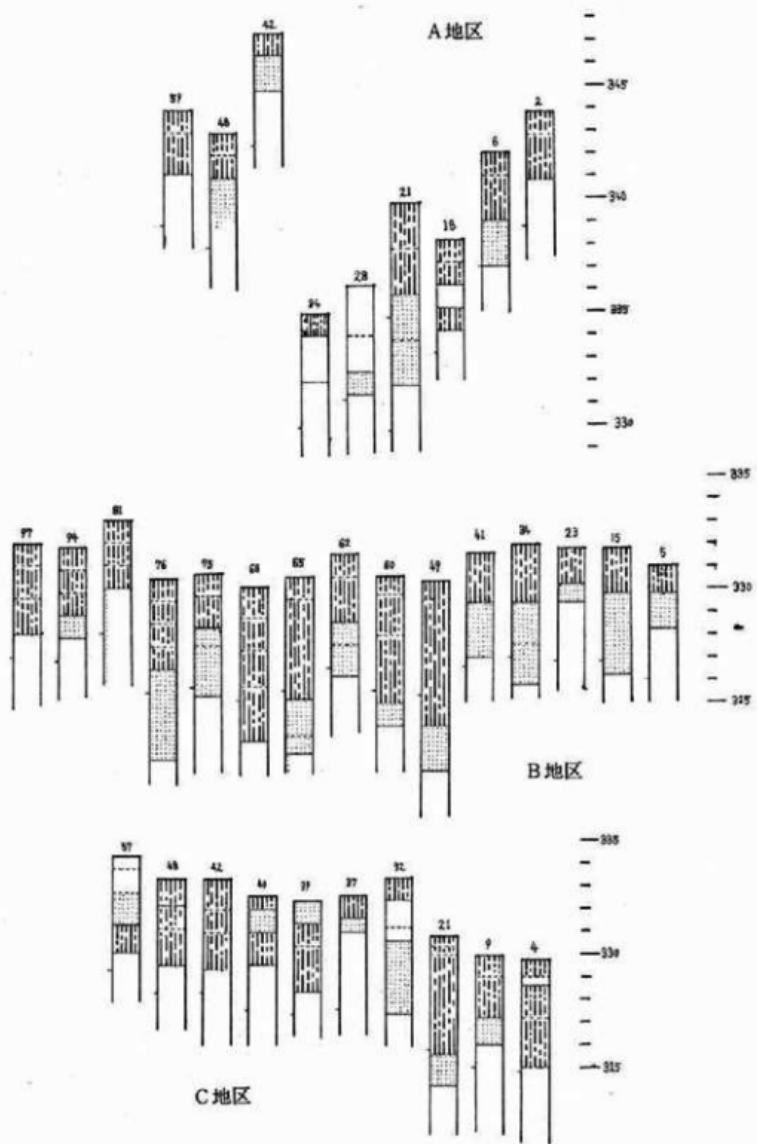
また、いずれの地点でも、1a層以下に、オレンジ色粒のものを点在させている。これは粘土粒の腐植したものと思われる。

柱状図を照合して、1層は10cm~65cmの幅をもつが、50cmを超えるものは少なく、ほとんど30cm前後で堆積している。第2層は、5cm~40cmと幅があり各地点によって異なっていた。

(藤塚郁夫)



第7図 A地区第32号調査坑



第7図 土層の柱状図

6 遺構・遺物

242か所の調査坑から遺構・遺物の検出をみたのは、145坑からであった。以下遺構と遺物の概要を記述したい。

(1) 遺構

調査坑から遺構の検出されたのはA地区8坑、B地区9坑でC地区からは皆無であった。C地区は耕地整理の工事によって土層はいちじるしく擾乱されたからである。

検出された遺構については、第4表遺構一覧表をかけた。調査坑の試掘後は実測・写真撮影をすませると、ただちに原状をそのままにして埋めもどし保存をはかった。ただし、B-23のみは遺構を拡張し発掘調査した。

B-23は小字北原472-イ・ロ番地の所有者は増田満氏で、面積は1175m²(356坪)の果樹園(リンゴ・モモ)の場所である。県史跡指定地の中央やや東寄りの旧千曲川上の段丘微高地にあたる。第1次発掘調査(昭和23年)第2トレンチの東隣りにあって故増田実晴氏が耕作中に多量の遺物を表採された付近である。

7月23日に調査を開始したところ東北隅に敷石状遺構の検出をみた。翌24日県教委文化課指導主事田武正先生が現地指導にみえて、特殊な状況であるから拡張して精査をするようにとの助言をいただいた。そこで23号の北側へ1m×1mを拡張して、遺構・遺物の検出をみた。数値等については第4表を見ていただきたい。遺物は弥生中期土器片636点を得、柱穴ピット内に土器片の所在したもののはP1-14点・P2-5点・P3-11点である。故増田実晴氏はこの周辺から100余点の管玉を表採されたことから、掘った土は全部縦にかけたが、黒曜石製有柄打石鎌1点と鉄鋸状鉄片1点を得たのみで、玉類は発見することはできなかった。この坑の調査は、以上のような事情から調査作業員3名で5日間を要した。(池田実男)

第4表 遺構一覧表

調査坑	種別	地表下	規 模		摘要
			直 径	深 さ	
A-2	柱穴	30cm	P ₁ 、31×32		北西隅の近くにあり 横半分なし
A-2	敷石群	30cm	30×30		南西隅約90cm
A-4	柱穴	50cm	P ₁ 、24×25 P ₂ 、20×18		P ₁ 、中央部北西側にあり P ₂ 、中央南側 約4分の1なし

A-11	柱穴	45cm	P1、32×34 P2、78×42 P3、25×22		P1、北西隅約3分の1 P2、中央部西南にあり P3、中央部南東側にあり
A-20	柱穴?	30cm	P、30×31		北西隅にあり
A-29	柱穴	35cm	P、19×20		P中央よりや、北東部にあり
A-39	柱穴?	40cm	P1、26×29 P2、26×25		P1、中央部北西側にあり P2、南東側角寄りにあり
A-41	礫群	55cm	65×45		南東側角より西側にかけて 約2925cm ²
B-4	住居址の一部	23cm	46×70、 $\frac{1}{2}$		北西角寄りに有り約1400cm ² 附近木炭片散乱
B-9	柱穴	20cm	P、30×30		P北東部よりに有り約4分の 1位なし
B-19	柱穴	30cm	P1、8×14 P2、37×35 P3、17×18		P1、北西隅寄りにあり P2、中央北西寄りにあり P3、南西隅寄りにあり
B-23	敷石群	24cm	100×100		約1m ²
B-23'	敷石群	24cm	50×90、 $\frac{1}{2}$ 25×30		東中央部より北西隅に至る 南西角約0.5m ² 敷石
B-23	柱穴	41cm	P、15×12		P、中央西寄りにあり
B-23'	柱穴	43cm	P1、16×11、 $\frac{1}{2}$	P1、17	P1、北西角寄りで約半分
		43cm	P2、25×25	P2、26	P2、北西中央寄り
		43cm	P3、23×23	P3、24	P3、中央東側寄り
		43cm	P4、32×28、 $\frac{1}{2}$	P4、22	P4、南西側中央寄り
		41cm	P5、14×15	P5、13.5	P5、南西隅寄り
B-24	柱穴	39cm	P1、17×18 P6、15×16		P1、南側中央寄り P2、南側中央寄り
B-30	柱穴	51cm	P、22×16		東側4分の1なし
B-38	柱穴	75cm	P、25×23		北西隅にあり
B-54	敷石群		25×100		暗渠排水と思われる 敷石約0.25m ²
B-87	柱穴	35cm	P1、16×16 P2、18×19 P3、20×19		P1、北東角よりにあり P2、中央寄りにあり P3、中央南西寄りにあり
B-93	礫群	38cm	50×50、 $\frac{1}{2}$		北東側隅にあり 面積約1.2m ²

(2) 遺物

① A地区出土遺物

牧山の集落を中心とするA地区の調査坑は62か所を設定し、出土遺物の検出をみたのは35坑からであった。第4表はその一覧表で、第9図は実測と拓影である。弥生中期の遺物は旧千曲川沿の27~29坑及び39坑と、第3次発掘調査地周辺の55~58坑に多かった。21坑からは白磁小片1点、49坑からは珠洲焼鉢片1点が検出された。（金井汲次）

第5表 A地区調査坑出土遺物一覧表

調査坑	弦 生					土 師			摘要	
	壺	甕	高環	その他	破片	備考	壺	甕	その他	
1					1	塗彩 1				
2										集石址 (柱状図)
3	2	2			16					柱穴
4					1					柱穴 2
5						砥石片 1				
6	1	1								(柱状図)
7					11					
9					2					
11	3	12			10	塗彩 1				柱穴 3
14					1					
15		1			4	石屑 2				
18										(柱状図)
19					19		2			
20										柱穴 1 陶器片 1 (柱状図)
21					4	木炭片				白磁片 1
22										珠洲焼片 1
23					8	石屑 2				
27	1	1			7					
28	1				33					(柱状図)
29										柱穴 1
30					1					
31					2					
34										(柱状図)
39	5	2	2		57	塗彩 5 石屑 2				柱穴 2
41										集石址?
42										(柱状図)
43										(柱状図)
48										(柱状図)
49										珠洲燒鑄鉢片 1 砥石片 1 石器片 1 石塔片 1
50		1								

54									柱穴?
56					1				柱穴1
57	105	17	1		400	工作台石片1 塗彩脚片1 石屑12			
58					4				
59									(柱状図)
合計	118	37	3		582		2		

②B地区出土遺物

県史跡指定地31000m²（東西360m南北平均85m）を中心に、道路南側の水田寄りの28300m²に調査坑110か所を設定した。土層の搅乱はほとんど行われず、出土遺物の検出をみなかった調査坑は33か所であった。調査坑出土遺物は第6表で、99%は弥生中期の遺物で、他は国分期の土師器片と須恵器片である。

第10～12図は遺物の実測図と拓影で、拓影は各坑のめぼしいもののみを掲げた。23坑からは土器片636点に及び、第10図3・8は土器の実測、第12図1～83は土器の拓影である。第11図18は黒曜石打石錐、39は錫状鉄器片の実測図を掲げた。（金井汲次）

第6表 B地区調査坑出土遺物一覧表

調査坑	弥 生						土 师			摘要
	壺	甕	高杯	その他	破片	備考	杯	甕	その他	
4	7	4			48	木炭片				柱穴1
5										(柱状図)
6		1			2				1	工作台石1 川原石4
7										土器片53 石錐片?
9										柱穴1
11	1	1		6					1	
14	2	1		11		石屑1				
15										(柱状図)
16	4	4			22					
17	6	4			30	石屑1				
19	9	12			42	石屑4			杯片1 壺片1	柱穴1 糸切底
20	6	1			9	石屑1				
21					14					
22	1	1			13	石屑1				

23	72	37			638	石屑 9 打石鎌 1 川原石 188				鐵鎌 1 ? 柱穴 6 集石址(柱状図)
23 P-1	5	2			14					
23 P-2	4	4			5					
23 P-3	5	4	1		11					
24	6	2			10	塗彩 1				柱穴 1 陶器片 1
25					5					
26	6	6			7	石屑 2				
27	32	25			118	塗彩 4	1	5		
28	19	14			204	塗彩 5 蓋 1				
29	12	11		2	98	塗彩 2 石屑 1				
30	18	18			84	塗彩 6 蓋 1、工作石 2				柱穴 1、廢煤付着 3 長頸壺片 1
31	58	47			249	塗彩 7 石屑 2				
33	12	13			43	塗彩 4 石屑 2				
34	64	80			413	塗彩 13 石屑 2			2	砥石片 1 (柱状図)
35	38	28	1		72	塗彩 1 石屑 2				
37	48	42	1		346	塗彩 9 石屑 5 川原石 49				円板孔土器片(赤) 1
38	10	5			63	塗彩 5 石屑 1				柱穴 1
39	15	7			21	塗彩 2 工作台石 1 燒土塊 1				
40	27	17			68	塗彩 3 燒粘土壤 2				
41	47	23	1		164	塗彩 3、敲石 1 石屑 1 燒粘塊土 13			須恵 1	集石址(多) (柱状図)
42	15	6			48	塗彩 4 石屑 2				
43	79	32	2		477					
44	39	17			189	塗彩 4				壺片に縞文帯(多)
45	7	6			64	塗彩 3				
46	32	14	1		246	塗彩 2 石屑 1			須恵 1	

48	13	18			97	塗彩 3 砾石 1 燒土塊 1					
49	20	7			71	塗彩 3				(柱 狀 圖)	
50	8	2			12	塗彩 1				長頸壺片(弦)1	
51	21	9			51	塗彩 5					
52	17	8	1		41	塗彩 5					
54					4					集石址	
55	26	12	1		136	塗彩 11					
56	22	15			216	塗彩 9 石屑 3	1				
57	41	24			252	塗彩 4 石屑 4				拳大水晶原石 1	
58	30	16			51	塗彩 7					
60	60	46	1		270	塗彩 26 石屑 1				(柱 狀 圖)	
62	9	8			30	石屑 2				(柱 狀 圖)	
63	17	5			31	塗彩 4 石屑 1		1		集石址 工作台石 9	
64	1										
65	35	14	1		139	塗彩 8 石屑 1				(柱 狀 圖)	
66	18	11			54	塗彩 5 木炭片 3					
67	18	4			19	塗彩 2 敲石 1				灰釉段皿片 1	
68										(柱 狀 圖)	
69	38	9			137	塗彩 8 石屑 1		4			
70	55	26			116	塗彩 8 器底片 1 石屑 1				凹石片1、敲石2 広口壺片 1	
72	58	26			237	塗彩 14 燒石片 1 石屑 2	10 (内道) 1(米切)	3	5	須惠片 4 銅蓋片 1	
75	3	3			12	石屑 1				燒土塊(多) (柱 狀 圖)	
76										(柱 狀 圖)	
78						敲石 1					
80	1	5			72				2	煤付着 1	
81	1	1			24	石屑 3				須惠1 磨石1 川原石10 (柱状圖)	
85	12	11			41	塗彩 1					

87	34	9			100	塗彩 3 石屑 1 木炭片 1				粘土塊 17
88						工作台石 1				
90'					4	石屑 1 川原石 4			須恵片 3 灰釉片 1	
91										川原石 1 工作台石 2
92					6					川原石 12 砾石 1
93										川原石 17 集石址
94	9	3			86	遺物磨耗			須恵 1	川原石 24 (柱状図)
96	4	3			42					
97	6	1			49	塗彩 3 川原石 10				川原石 2 (柱状図)
99					6	川原石 9				
100		1			3					
102		2			22	塗彩 1 川原石 11				
105	5	4				塗彩 1				
106										柱穴
合計	1,287	792	11	17	6,307			13	8	29

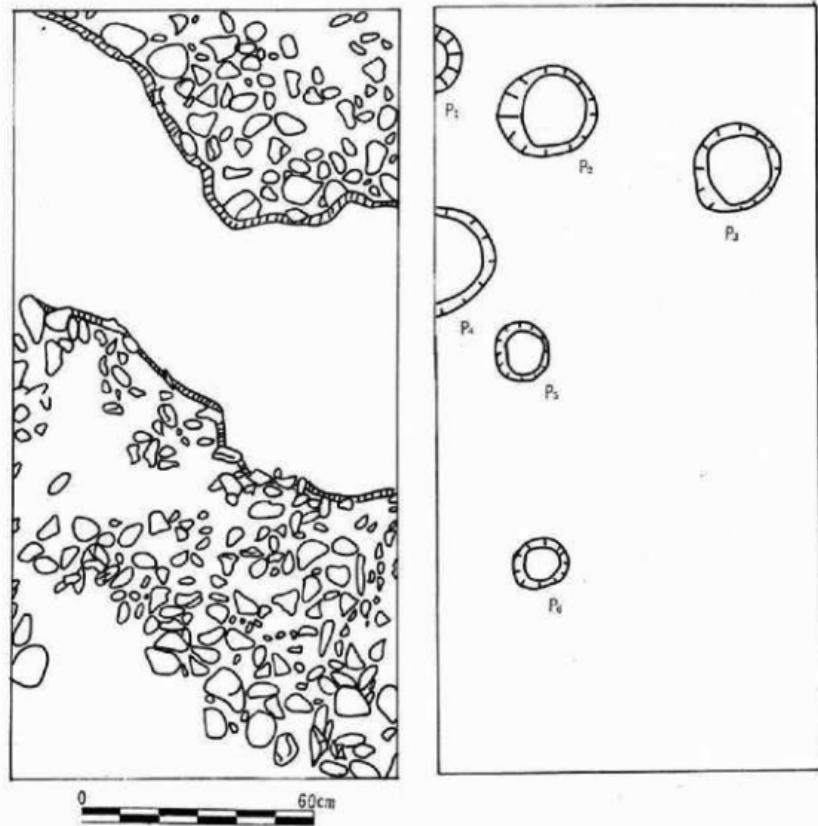
③ C地区出土遺物

調査坑は70か所を設けたが、開田時の土層擾乱や住宅地等のため遺物の検出をみたのは19坑にすぎなかった。第7表は出土遺物の集計表であり、第13図は実測と拓影図である。(金井汲次)

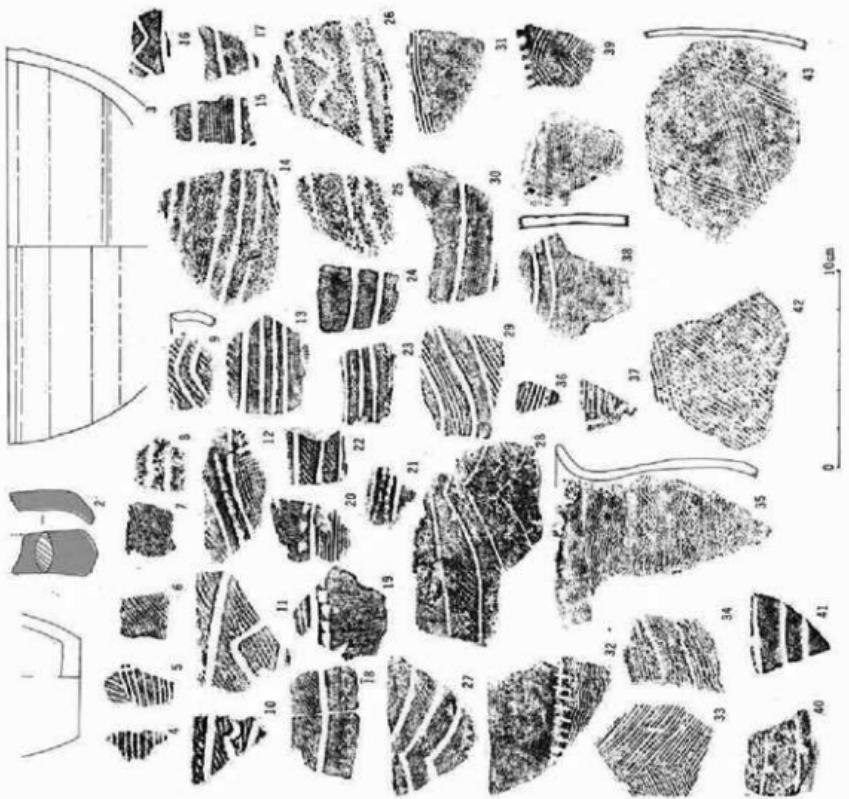
第7表 C地区調査坑出土遺物一覧表

調査坑	弥生					土師			摘要	
	壺	甕	高杯	その他	破片	備考	杯	甕	その他	
4	1	4			15					(柱状図)
5										柱穴?
7	3	3			16	砾石 1				柱穴? 陶器片 1
8							1			
9	1	3			16					(柱状図)
10					1	石屑 2				
11	4	1			12	石屑 1		3		灰釉杯片 1
13	1	1								

20	1	6			4					須惠片 1
21						敲石 2 石屑 2				(柱状圖)
24	16	5	32			石英石 1 燒粘土塊 1				
25		25			4					
27	26	25	3		112	塗彩 7 石屑 6				須惠片 1
28	7	3			25	石屑 5 (系切)		5		陶器片 1
29	34	41	2		94					
30	6	13	1		26	塗彩 1				
32	2	1			2			1		(柱状圖)
34					1	工作台石片 1				
37										(柱状圖)
39										(柱状圖)
40										(柱状圖)
41					3					
42										(柱状圖)
43						燒石片 3				
49					1	川原台 3				(柱状圖)
51						石屑 1				
57										(柱状圖)
63						石屑 1				-
65						燒石片 1				須惠片 1
66					1					
68					1			1		須惠片 1
合計	102	107	38		391		2	3	7	



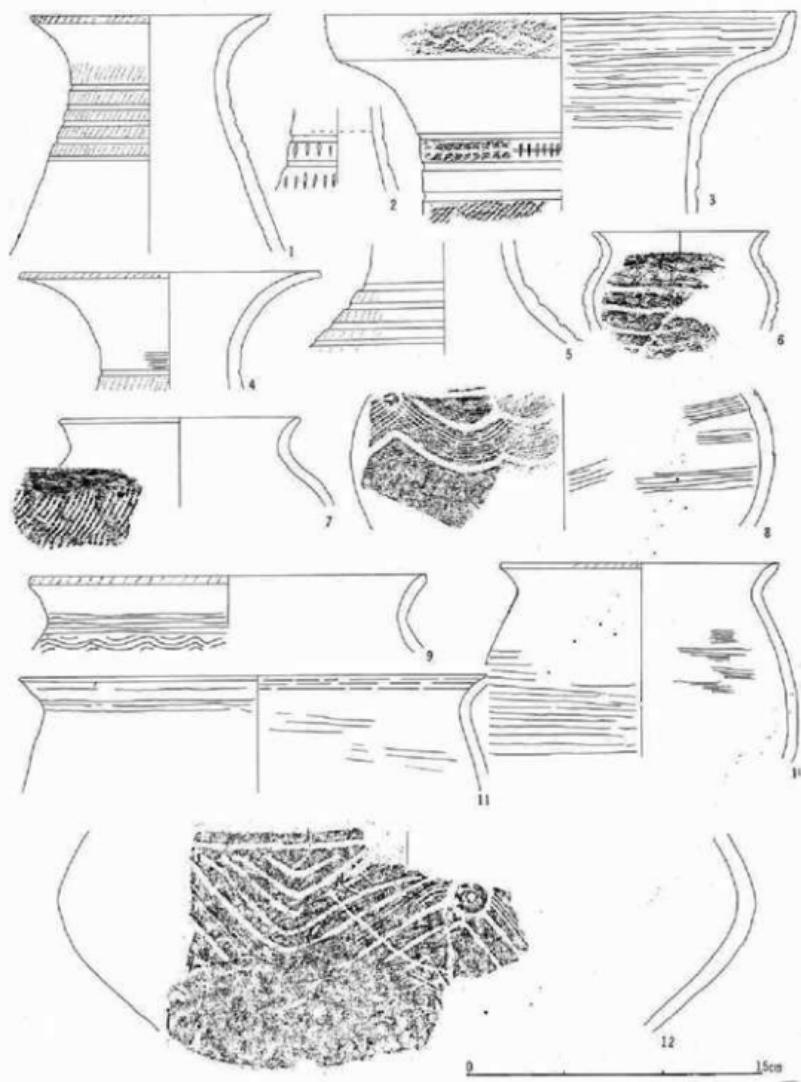
第8図 B-23号遺構実測図



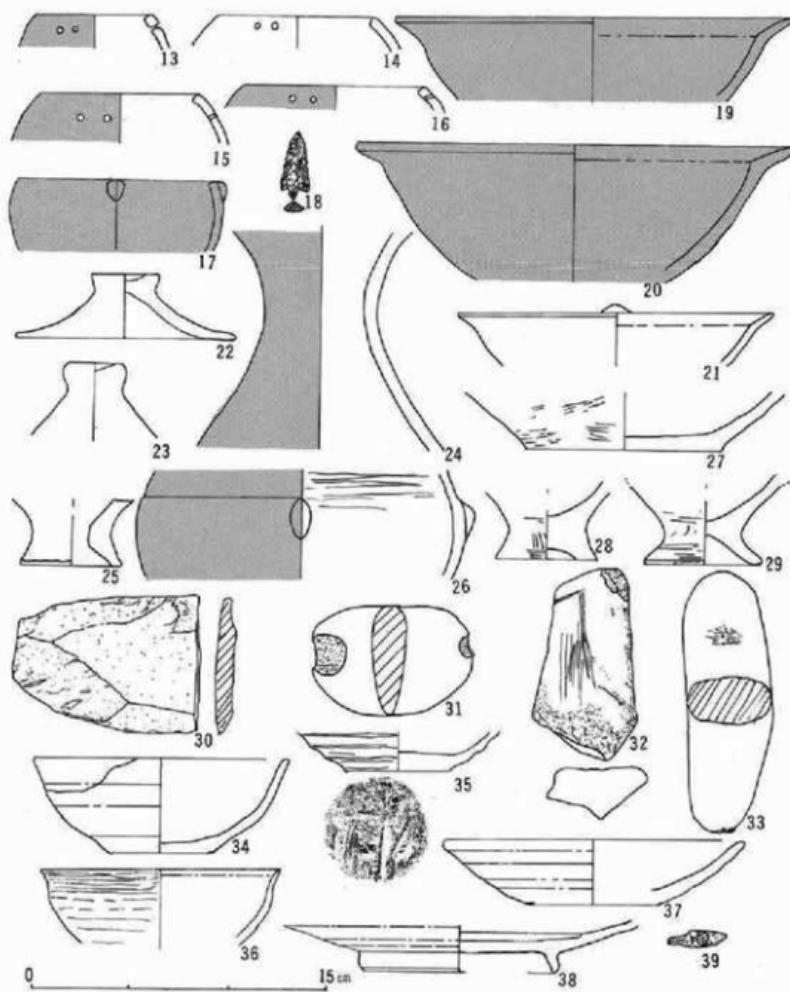
第9図 A地区調査坑出土遺物実測拓影図

0 10mm

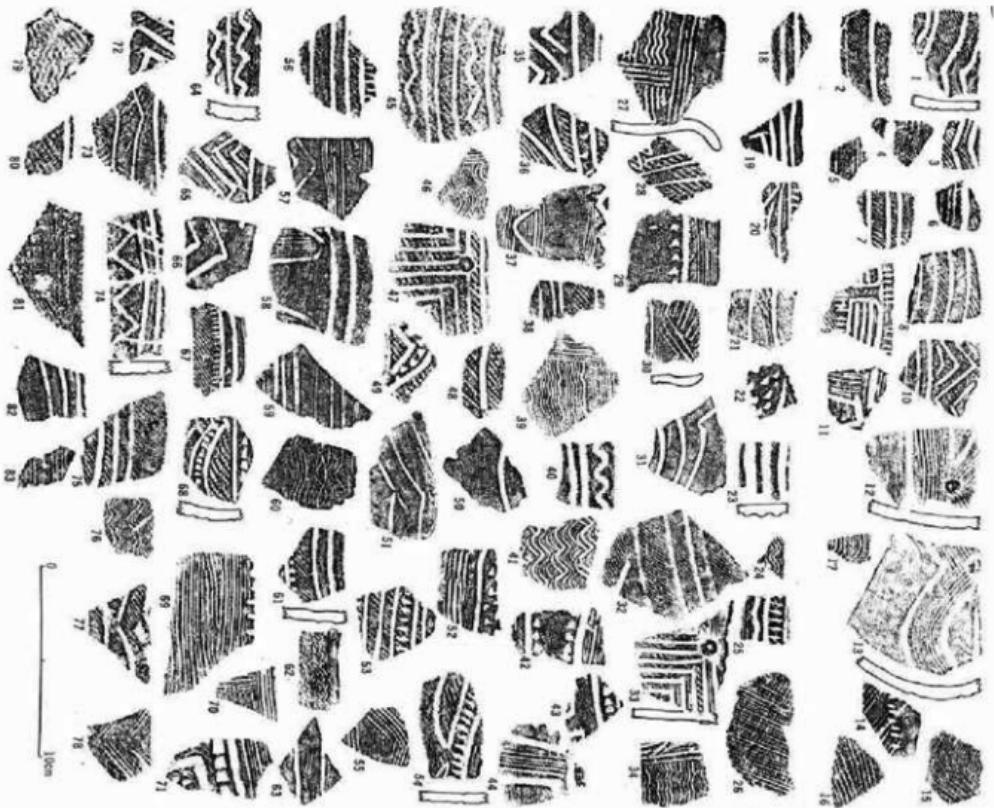
第10図 B地区調査坑出土遺物実測図(1)



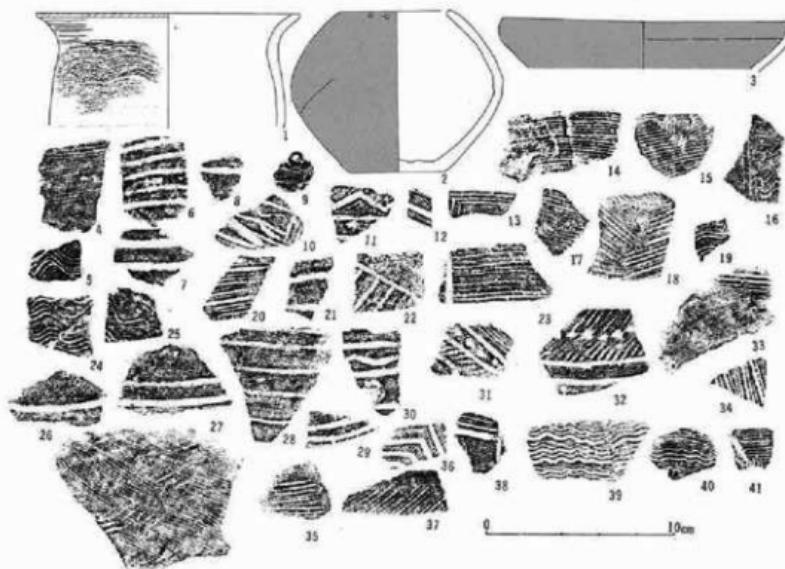
第11図 B地区調査坑出土遺物実測図(2)



第12図 B地区調査坑出土遺物拓影図



第13図 C地区調査坑出土遺物実測拓影図



7 周辺調査

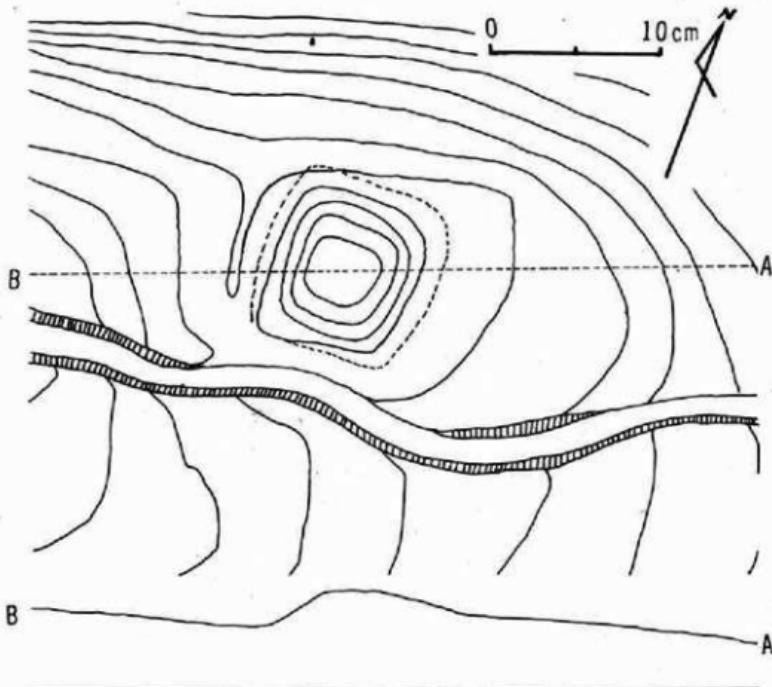
調査坑を設定し調査過程で、埋蔵文化財包蔵地の範囲は相当の広がりをもち、複合していることが判明したので、周辺の分布調査を実施した。以下その結果の概要について述べたい。(金井汲次)

(1) 白山姫神社古墳（栗林1号墳）

栗林部落の氏神白山姫神社の西裏に完形で所在し、西原39番地の社有地である。墳丘とその周辺にはカラマツが植栽されている。第14図にかかけたごとく、直径11m、高さ2mの方形墳で、市内では田麦林畔1号墳とともに方墳として貴重な存在である。

栗林2号墳は神社の東側にあって、戦後の住宅建設の折に消滅したが、小さな方墳であった。

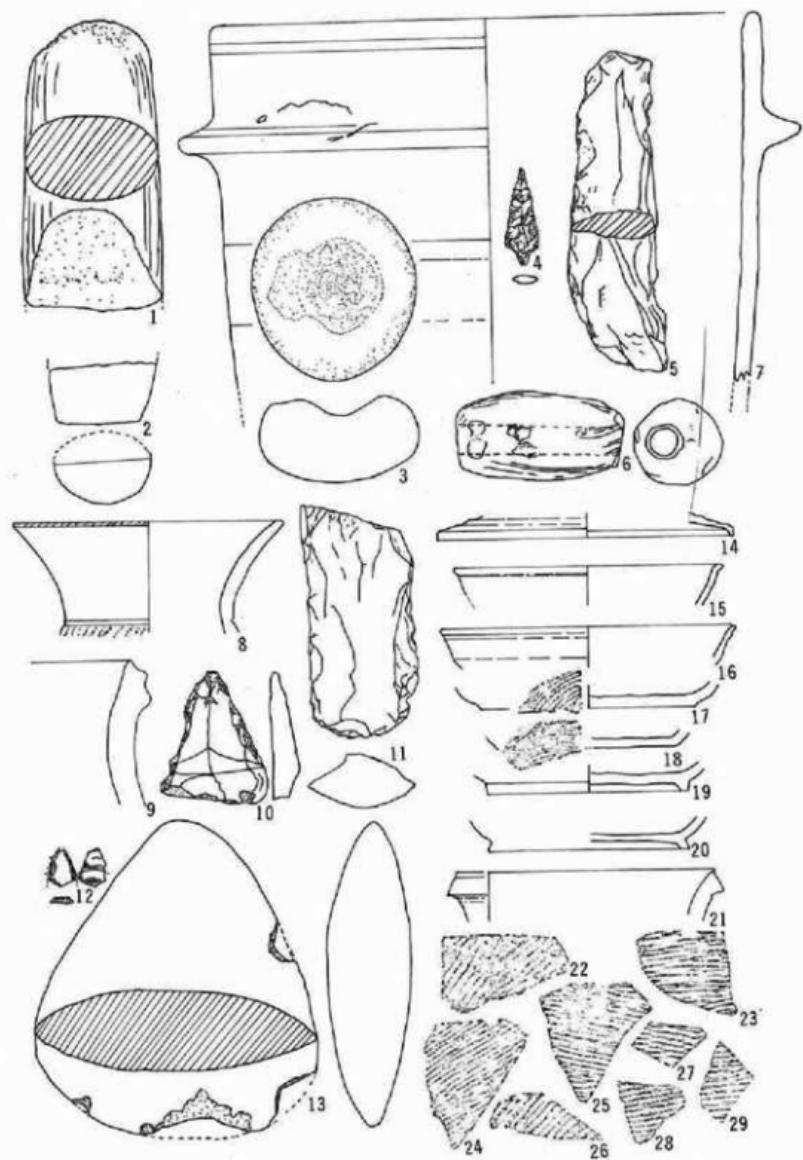
第15図13は増田昌氏が小丸山古墳（半壇）周辺から採集された蛤状自然石であるが、増田氏の所有地から40個余が出土し、住宅建設の折に土台の基礎石に利用してしまった由である。同形のものを白山姫古墳北側に住われる有賀利夫氏も屋敷内から2個を発見し、所有されている。増田氏によると祭祀に関係するものであろうかとされているが後考にまちたい。



第14図 白山姫神社古墳実測図

(2) 栗林西原窯址群

調査を開始して数日後、有賀褒之助氏は比較的大形の窯跡を調査団本部へ持参され、西原地籍で表採したと話され、神社西裏200m周辺の斜面に窯址の存在を想定した。その後小林恵和君（高丘小3年生）が自宅の畠（西原92番地）のリンゴ園で採集した須恵片を入れた菓子折を提示してくれた。甕片41点、壺片58点、蓋片4点で第15図14～21はその実測図、22～39は拓影図である。平安時代初期の窯址が数基所在するものと思われ、栗林西原窯址群と呼称することとした。



第15図 周辺調査出土遺物実測図

(3) 表面採集資料

調査坑の調べが終了して周辺の分布調査を行い、表面採集によって得た資料は第15図12、8~12は縄文・弥生・古代の遺物の実測図である。有賀今朝男氏宅の遺物(3~5)は屋敷内から、6(管状土錐)と7(鉢付釜)は野地地籍で数年前にリンゴの抜根の折に採集されたものである。なお、このほかに糸切底の国分寺期の土師器細片があった。

牧山地籍では宝鏡印塔の破片1点と五輪塔水輪1点の表面採集があった。

(4) 井戸址

白山姫神社北側の崖下に古井戸址があつて御手洗池とも呼ばれ、この地域に上水道が付設するまでは使われていた由である。調査期間中に井戸浚いを実施し、測量したものの結果は第16図である。井戸浚いの折に採集した遺物は近・現代のもので、飯茶碗12、井5、茶碗4、甕2、小皿3、電灯笠2、鉢2、急須1、徳利1、八角大皿1、軒瓦(巴文)1、西洋皿1、盃1、醤油徳利(記名一田村商店)、漆塗木器片2、インク壺(ガラス)1、ランプのはや1等であった。

この種の井戸址は筆池(公会堂裏)と下井戸(古屋敷地籍)にあって共同井戸として利用されていたものである。

8 結び

今次の調査結果については既に述べたとおりであり、それにしたがって遺跡の範囲をランク付けし、また、拡大したものが第17図である。さて、調査を担当した者として次に所見を述べたい。

① A地帯は県史跡指定地で弥生時代中期を主体とし、僅少の古代遺跡の複合する極めて貴重な地帯である。永久保存をはかるとともに活用を図る必要がある。

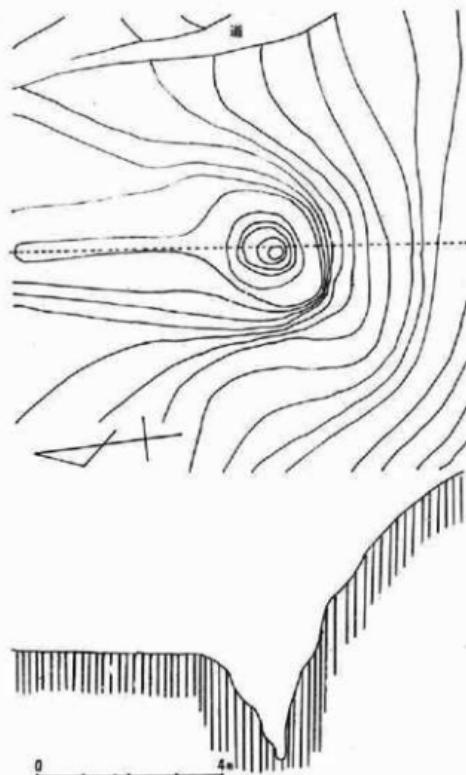
② A'・A''地帯は弥生時代中期の遺物・遺構の検出をみた所であり、上記1に準じて保存をはかる必要がある。

③ 牧山地籍の分布はやや稀薄であるが弥生~古代~中世の複合遺跡と推定され、保護措置について配慮しなければならない。

④ 栗林部落(西原地籍)の屋敷地帯とそれに接続する農耕地帯(野地地籍)は土層の搅乱はみられるにしても、縄文~弥生~古代の遺物の包含地として保護しなければならない。

⑤ 古墳・廬址・井戸址等については歴史的景観とともに永く保存し活用面について配慮することが望まれる。

本調査の遂行にあたっては多くの方々の御恩恵を受け、心から謝意を表する次第である。末筆ではあるが石川精造氏には調査員の宿舎を提供くださいされ、調査作業場を貸与された等々物心両面にわたる御高配を賜わったことにたいし心からお礼を申しあげる。(金井源次)



第16図 井戸址実測図



第17図 栗林遺跡範囲分布図



〈図版第1〉 栗林遺跡付近 (航空写真)



〈圖版第 2〉 遠郊遠景



〈圖版第 3〉 諸暨抗 A—4 号



〈図版第4〉 調査坑 A-27号



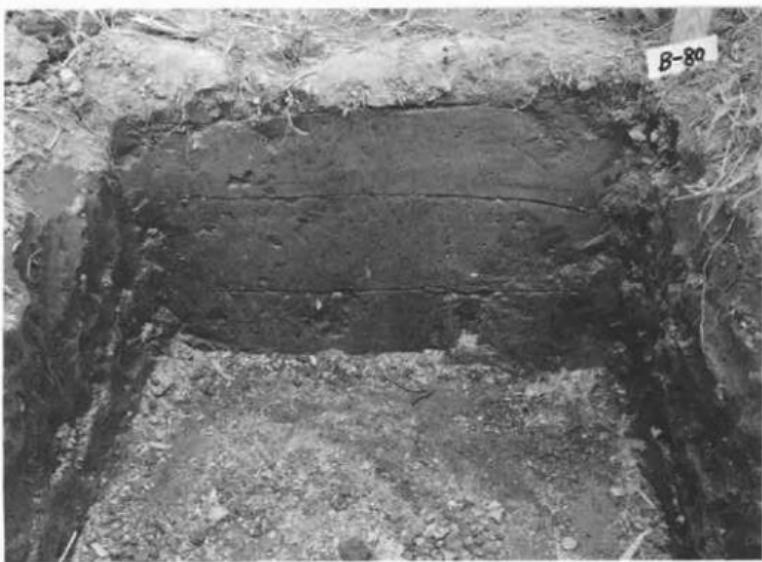
〈図版第5〉 調査坑 A-31号



〈図版第6〉 調査坑 A-39号



〈図版第7〉 調査坑 B-23号



〈図版第8〉 調査坑 B-80号



〈図版第9〉 調査坑 B-90号



〈図版第II〉 調査坑 C-34号

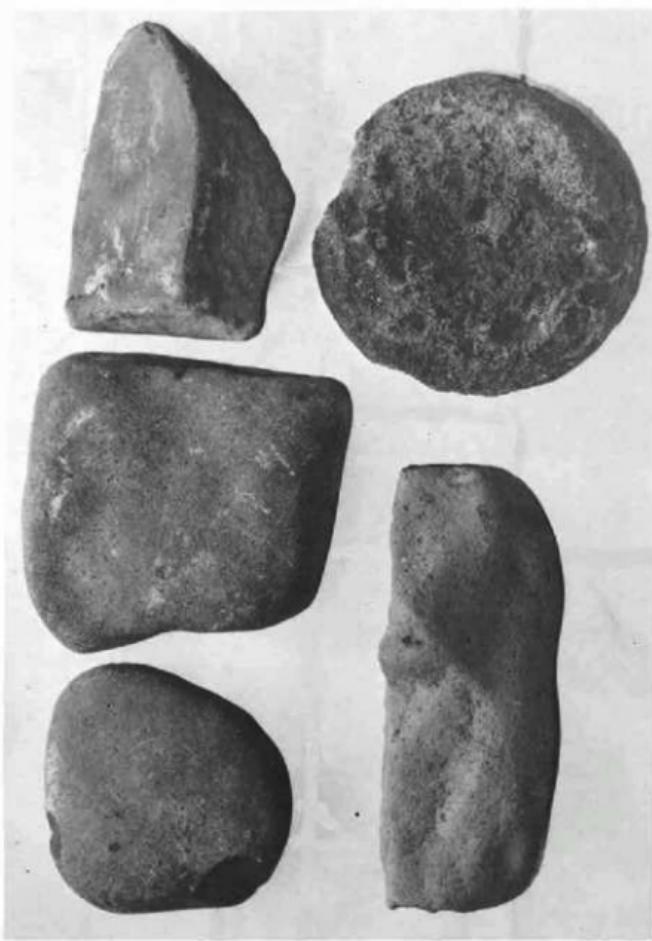


〈図版第12〉 白山姫神社古墳



〈図版第13〉 井戸址遺物

〈圖版第14〉 工作台石、五輪塔（右下）



第5図調査坑分布図



5 図調査坑分布図





栗林遺跡確認緊急調査報告書

昭和55年3月25日印刷

昭和55年3月31日発行

編集 中野市教育委員会事務局

発行 中野市教育委員会

長野県中野市三好町1-3-19

印刷 高錦堂印刷所

長野県中野市吉田1099

